



市内で多くの映画やテレビの撮影が行なわれていることをご存じですか？市では、撮影を支援するための組織「つちうらフィルムコミッション」を設立し、各種ロケなどへの支援に取り組んでいます。今号では、現在までに市内で撮影された主な映像作品を、撮影場所とともに紹介します。あなたの身近な場所で、意外な作品のロケが行われているかもしれませんよ。

「ゆずPV“うまく言えない”」
モール505



「NHK太宰治短編小説集 女生徒」
朝日峠展望公園



「仮面ライダーディケイド」
小町の館



「GO APE(ゴーエイブ)」
土浦工業高等学校



「ガレッジ×ビレッジ」
亀城公園





オフィス小島
小島信三さん

Profile

市内を中心に茨城県のロケ地の情報提供や現場の管理・調整などを行うロケーションコーディネーター。テレビ、映画など今までに約250作品を担当。

土浦市／そのロケ地としての魅力

オリンピックのトランポリン選手、中田大輔さんが霞ヶ浦の湖上7×8メートルも飛び上がり、回転し、ヒネリを入れて着水。それを見て、つちまる、キララちゃんが両手を振り応援。背景には、ようこそ土浦市へ！の横断幕。

ご覧になった方もいらつしやると思いますが、先月TBSテレビ「飛び出せ！科学くん」で30分ほどワクスマリーナでのロケが全国へオンエアされました。

都内より一時間ほど来られる土浦市は、つちうらフィルムコミッションの頑張りもあり、今、ロケ地として脚光を浴びています。ロケコーディネーターの視点から見ると、土浦市は魅力にあふれています。蓮河原の堤、水郷公園、沖宿の漁港などの自然風景、霞月楼などの文化資産、そして、レンコン、ワカサギなどの食文化。さまざまなシーンに対応できる懐の広さを持っています。

そして、何よりも大切なロケ隊を迎え入れる市民の皆さまのホスピタリティーが素晴らしいと思います。都会には希薄になりつつある人と人とのつながりが残っていて、いつも温かく迎え入れて頂いていることに感謝しております。

ロケを通して土浦市の魅力を全国に知って頂き、人と人とのつながりを基盤に市が活性化していくお手伝いができればと思っています。

つちうら、ロケ隊がお邪魔しましたら見守ってください。

特集

つちうら フィルムコミッション

Tschiura
Film
Commission

フィルムコミッションについて

平成20年4月に、つちうらフィルムコミッションを立ち上げてから2年9か月がたち、これまでに67の作品が土浦で撮影されました。

フィルムコミッションとは、映画やテレビなどのロケを誘致し、撮影がスムーズに進むようにサポートする機関のことです。市では商工観光課がその仕事を行っています。

フィルムコミッションに取り組むことでどのような効果があるのでしょうか。最も大きなものは、作品を通して土浦のPRとイメージアップが図られることです。その作品が話題になれば、ロケ地めぐりなど、多くの観光客が撮影場所を訪れることが期待されます。そのほか、飲食や宿泊代などでロケ隊が支払う直接的な経済効果や、自分の住むまちが画面に登場することで地元の良いさを再認識してもらうきっかけとなることなどがあげられます。

今後は、もう一歩進んで、エキストラやボランティアスタッフとして撮影の現場に立ち会ってもらおう中から、制作の世界に興味を抱き、プロとして映像産業へ進む人が出て来たら、そんな後押しができたなら素晴らしいことだと考えています。

できるだけ多くの市民の皆さんに、フィルムコミッション活動を通じて制作の現場を知っていただくとともに、映像作品を作り上げる楽しさや感動を分かち合いたいと考えています。

ロケ地の情報もお待ちしていますので、どうかご協力よろしくをお願いします。



土浦市商工観光課
主幹 中島朋子

Profile

つちうらフィルムコミッションに立ち上げ当初から携わる。ロケ地紹介からエキストラ出演、ときには撮影用の弁当作りなどロケを裏から支えている。

